

やまと 民俗への招待

鹿谷 烈

10月15日、雨の降る中、曾爾村へ行った。広い谷筋に清流が流れ、スキが陽光に輝く曾爾高原などで知られる。国民文化祭の一環で、伝承300年を迎えた曾爾の獅子舞を中心とした獅子舞が村ふれあいホールで特別公開された。

会場の目の前は、岩と兜岩が折からの雨と霧で雄大な姿を見せており。入り口付近には、曾爾村の今井・長野・伊賀見の獅子頭や道具などが展示され、舞台の正面奥には獅子の屋形も据えられている。

最初に、曾爾中学生が総合学習ふるとタイムで習った獅子舞を披露した。男女生徒による立派な獅子舞だった。村長と議長のあいさつがあり、私は「獅子神楽の伝承」というテーマで獅子舞の話をさせていただいた。

獅子舞は、わが国の民俗芸能でも大変人気のある芸能であるが、獅子頭にその最大の特色が宿る。見開いた大きな目と口。顔は赤や黒で、形も丸形や四角であったりするが、強い力を周囲に發散させている聖なる獣のイメージを造形している。悪靈を祓い、清める役割を担つて、古くから

人を守り育てる獅子舞



伊賀見の接ぎ獅子（花魁道中）＝筆者提供

祭礼や芸能の中で生き続た。男女生徒による立派な獅子舞だった。村長と議長のあいさつがあり、私は「獅子神楽の伝承」というテーマで獅子舞の話をさせていただいた。獅子舞は、わが国の民俗芸能でも大変人気のある芸能であるが、獅子頭にその最大の特色が宿る。見開いた大きな目と口。顔は赤や黒で、形も丸形や四角であったりするが、強い力を周囲に発散させている聖なる獣のイメージを造形している。悪靈を祓い、清める役割を担つて、古くから

表

た。男女生徒による立派な獅子舞だった。村長と議長のあいさつがあり、私は「獅子神楽の伝承」というテーマで獅子舞の話をさせていただいた。獅子舞は、どれも見てることもあるものばかりだ。応えのあるものばかりだ。この後、次々に演じられた獅子舞は、どれも見応えのあるものばかりだ。いかと拙いながら伝えたい。

7月18日(享保3年)年に「五穀成就村安全のために」と獅子舞を始めた長野が獅子と天狗とおかげ、ひょっとこを交じえて樂しい「獅子踊り」などを披露した。この後、山添村の神波多神社に伝わる天王の獅子舞が「四方掛りの舞」や「獅子踊り」など練られた芸を、今井が美しい「参神樂」を、さらに名張市南町が切れのある「荒獅子」を演じ、最後が伊賀見の「接ぎ獅子」となった。

獅子を肩に載せる「台」の青年、獅子頭を被ったまま素足で肩に乗つて所作をする「上」の少年、さらに後に付いて胴幕を持つ「後待ち」の3人が1組になって、ゆっくり会場を巡り、鈴と御幣で神前の舞を行い、剣を用いて悪魔祓いをし、最後に傘と扇子を持って「花魁道中」を演じた。魁道中の獅子舞もその土地の獅子舞もその土地の特色を体現した素晴らしい獅子舞だった。「芸能する心」は、そこに生きる人を守り育てることに飛びつくのだしありがとうと思いつ日だった。